

第五十二回 帝國議會 貴族院 王公族ヨリ内地ノ家ニ入りタル者及内地ノ家ヲ去リ王公家議事速記録第一號

付託議案

不動産登記法中改正法律案

委員氏名

委員長

伯爵寺島誠一郎君

副委員長

河村謙三郎君

子爵敷 篤磨君

子爵板倉 勝憲君

石原 健三君

鈴木喜三郎君

石塚 英藏君

男爵船越光之丞君

磯貝 浩君

昭和二年二月二十五日(金曜日)午前十一時八分開會

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 是ヨリ開會

イタシマス、幸ヒ司法大臣ガ御出席ニナッテ居ラレマスカラ大臣ヨリ此案ニ付キマシテ一應ノ御説明ヲ願ヒマス

○國務大臣(江木翼君) 韓國併合ニ關シマスル條約及其當時煥發イタサレマシタル詔書ニ於キマシテ、朝鮮ノ王公族ハ、待ツニ

皇族ノ禮ヲ以テ待遇セラレ、且ツ之ニ關スル特別ノ軌範ヲ制定スルコトニ仰出サレタノデアリマス、依ッテ之ニ基キマシテ大正十五年十一月三十日、法律第八十三號ヲ以テマシテ即チ昨年御協賛ヲ經マシタル王公族ノ權義ニ關スル法律ガ公布セラレマシタ、此法律ニ基キマシテ即チ皇室令ヲ以テマシテ王公家軌範ナルモノガ制定イタサレタノデアリマス、此王公家軌範ハ昨年ノ十二月二十一日ヨリ施行セラルルニ至ッタノデアリマス、而シテ王公家軌範ノ内容ヲ案ジ

マスルニ、皇室典範、皇族身位令、皇室財產令、皇族親族令等ニ倣ヒマシテ王族公族ノ襲系、身位、財產、親族等ニ關スル規定ヲ設ケラレタノデアリマス、仍テ以テ自ラ王公族ヨリ内地ノ家ニ入ラレ、又ハ内地ノ家籍ニアル者ガ其家籍ヲ去ッテ王公家ニ入ルト云フコトガ自然ニ生ジテ來ルヤウニナッタノデアリマス、從ッテ其場合ニ於ケル入籍、除籍、復籍、一家創立、廢絶家再興其他ニ關スル規定ヲ設クルノ必要ガ生ジテ參ッタノデアリマス、是ハ丁度皇室典範、皇族身位令、皇室親族令ニ依リマスル身分上ノ變更ニ關シマシテ、明治四十三年法律第三十九號ガ制定セラレテ居リマス其趣旨ト全然同一ノモノデアリマシテ、本法律案ハ大體四十三年ノ法律第三十九號ニ倣ヒマシテ、其規定ヲ設ケラレタノデアリマス、而シテ王公家軌範ニ依リ王公家ト内地ノ家トノ交渉ガ發生イタシマスル場合ニ於テ觀察イタシマスルニ、第一ニ王公族ガ養子縁組又ハ婚嫁ニ依リテ内地ノ家ニ入りタル場合、右ハ本案第五條ノ規定スル所デアリマシテ、其入りマシタル内地ノ家ノ戸主ヨリ入籍ノ旨ヲ市町村長ニ届出ヅルコトシタノデアリマス、第二ニ内地ノ戸籍ニアリマスル女子ガ婚嫁ニ依リマシテ王公家ニ入りマシタル場合、右ハ本案第五條ニ規定スル所デアリマシテ、其場合ニ於キマシテハ其去リタル内地ノ家ノ戸主ヨリ除籍ノ旨ヲ市町村長ニ届出ヅルコト致シタノデアリマス、第三ニ縁組又ハ婚姻ニ依リマシテ内地ノ家ニ入りマシタル王公族ハ、離縁又ハ離婚ニ依リマシテ内地ノ家ヲ去リマスル場合、右

ハ本案第一條ノ規定スル所デアリマシテ、此場合ハ王公家ニ復スルコトガ出來ナイ王公家軌範ノ規定ニナッテ居リマスル故ニ、其直系尊族ノ創立シタル家ガアリマスル場合ニハ其家ニ入り、其家ガナイ場合ニハ一家ヲ創立スルコトニ致シタノデアリマス、第四ニ婚嫁ニ依リ内地ノ家ヲ去リ王公家ニ入りタル者ヲ離婚其他ノ原因ニ依リ内地ノ家籍ニ復籍スル場合、復籍スベキ實家ナキ場合、是ガ第四段ノ場合デアリマシテ、右ハ本案第二條第三條第四條ノ規定スル所デアリマス、實家復籍ノ場合ニハ復籍ノ旨、復籍スベキ實家ナクシテ、一家ヲ創立シタル場合ニハ一家ヲ創立ノ旨、又廢絶シタル實家ヲ再興セントスル場合ニハ實家再興ノ旨ヲ、何レモ市町村長ニ届出ヅルコトニシタノデアリマス、第五ニ王公ガ薨去セラレタノ家ニ襲系者ナク、襲系ノ順序ニ在リマスル者ガ内地ノ家ニ在リマシテ、是ガ入ッテ王公家ヲ襲系スル場合デアリマス、右ハ本案第六條ノ規定スル所デアリマシテ、襲系者其配偶者及其長子孫ノ系統ニ在ル者、内地ノ家ヲ去リマスルガ故ニ宮内大臣ヨリ除籍ノ旨ヲ市町村長ニ通知スルコト致シマシタ、若シ其者ガ戸主デアリマス場合ニ於テハ内地ノ家ノ家督相繼ヲ開始スルコト致シタノデアリマス、以上ガ此王公族ヨリ内地ノ家ニ入りタル者及内地ノ家ヲ去リ王公族トナリタル者ノ戸籍等ニ關スル法律案ノ概要ヲ申上ゲタ次第デアリマス、次ニ他ノ一案デアリマスル不動産登記法中ノ改正法律案ハ、同ジク王公家軌範ニ基キマシテ世財產ヲ設定スルコトガアリマスルノデ、

而シテ右世襲財產ハ處分又ハ執行ノ目的トナスコトヲ得ナイ制度デアリマスガ故ニ、世襲財產ハ其ノ設定又ハ解除ノ場合ニ不動產ニ付テハ登記ヲナス必要ガアリマス、依ッテ是ト性質ヲ同ウ致シマスル皇族ノ遺留財產ニ關シマスル登記手續ヲ大體準用イタスノヲ適當ト致シマシテ、不動産登記法ノ規定ヲ補充致シタ次第デアリマス、右大要ノ御説明ヲ申上ゲマス

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 御質問ガゴザイマスレバドウゾ...

○石塚英藏君 私ハ未ダ深ク研究シテ居リマセヌガ、此一條カラ七條マデノ中デ、二條以下ハ總テ手續ニ關スルヤウニ見エルノデアリマス、獨リ一條ハ實體法ノヤウニ見エルノデアリマスルガ、而シテ此第一條ハ王公家軌範ノ一部トモ見ルベキモノデ王公家軌範ノ中ニ入ッタ方ガ宜カッタデヤナカト云フヤウナ感ジガ致シマス、其邊ハ如何ナモノデアリマセウカ、ソレガ一ツ、ソレカラ是モ未ダ研究シナイカラ分リマセヌガ、チヨット玆デ起ッタ疑問デアアルノデスガ、此一條ニ付テ離縁又ハ離婚ノ場合ニ於テハ云々ト斯ウアリマス、此二ツノ場合ニ於テハ原籍ニ復歸スルコト云フコトハ無イモノデスカ、サウ云フコトデナクシテ、特ニ創立シタル家ガアレバ、其家ニ入り、ソレガ無ケレバ別ニ一家ヲ創立スル、斯ウ云フ譯ニナルノデスカ、此二點ニ付テ實ハ即席ニ起ッタ疑問デアリマスガ、御答ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(池田寅二郎君) 私ヨリ便宜御答イタシマス、第一ノ御質問ノ趣旨ハ、此

第一條ハ寧ろ實體關係ニ關スル規定デアッテ、而カモ性質上王公家軌範ノ中ニ規定セラルベキヲ相當トスベキデナイカト云フ意味ノ御趣旨ト拜承イタシマシタ、一應御尤デゴザイマス、茲ニ王公家軌範ト離レテ別ニ規定イタシマシタ趣旨ハ、養子縁組、又ハ婚嫁ニ因リマシテ内地ノ家ニ入ラレマスレバ、即チ内地ノ家籍ニ歸屬セラレルコトニ相成リマスノデ、内地ノ一般臣民ノ列ニ下ガラレルト云フコトニ相成ルノデゴザイマス、ソコデ之ニ關シマシテ離婚縁ノ事柄ニ付キマシテハ、矢張り民法ノ規定ガ適用セラレルコトニ相成ルノデアリマス、デアリマスカラ、軌範ノ方ニハ規定ニ相成ラナカッタコトト考ヘテ居ルノデゴザイマス、サウシテ第二ノ御質問ニ丁度牽聯イタシマスガ、第二ノ御質問ノ趣旨ハ、離婚縁等ノ場合ニ於テ原籍ニ復歸セラレルコトガナイモノデアラウカト云フ御問ノヤウニ拜承イタシマシタ、一應左様ニ考ヘラレマスノデ、民法ノ規定ニ依リマシテ原籍ノ實家ニ復歸スベキモノニ相成テ居リマスガ、ソレニ付キマシテハ、此王公家軌範ノ第二十條デアリマス、御手許ニ差上ゲテアリマスガ、「王族又ハ公族ニシテ其ノ身位ヲ失ヒタル者ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外王族又ハ公族ニ復スルコトヲ得ス」ト云フコトニ相成テ居ル、即チ婚姻又ハ養子縁組ニ因テ内地臣民ノ家ニ入ラレマシタ者ガ、即チ離婚縁ノ場合ニ於テ元ヘ御戻リニナツテ王公族ニ復サレルコトハ、此二十條ノ規定ニ依リマシテ許サレザルコトニ相成テ居ルノデアリマスカラ、ソレデ民法通りニ原籍ニ復歸スルコトガ出來ナイヤウナ次第二ニナツテ居リマス、サウ云フ關係デアリマスカラ、一體ナラバ復歸スベキ家ガアリマセヌ故ニ、一家ヲ創立スル譯ニ相成

ルノデアリマスケレドモ、若シ其時ニ恰モ其復歸セラレマス方ノ直系尊屬ガ王公家軌範ノ規定、又ハ色々ノ事由ニ依リマシテ、一般臣民ノ籍ニ入ラレテ、サウシテ一家ヲ創立セラレル場合ガアルノデアリマス、若シ恰モサウ云フコトデモアッタナラバ、即チソレハ法律上ノ實家ト云フ譯ニ行キマセヌカラ、其尊屬ノ家ニ入ラレルト云フコトニスルノガ、蓋シ適當ノコトデアラウト云フコトデ以テ、此規定ヲ致シマシタ次第デアリマス、恰モ先程大臣ノ御説明ノ中ニモアリマシタ四十二年法律第三十九號ノ第一條ニ該當スル場合デアリマス、是ハ皇族デアリマス、皇族ヨリ華族ノ養子トナラレマシタ場合、ソレガ離婚ニ依テ復歸セラレ、又華族ニ婚嫁セラレマシタ方ガ離婚ニ依テ元ヘ戻ラレルト云フ場合ニ、即チ直系尊屬ノ臣籍ニ入リ、創立シタル家アルトキハ其ノ家ニ入リ、其家ナキトキハ一家ヲ創立スル、斯ウ云フ風ニ皇族ト華族トノ關係ヲ規定セラレマシタノ同ジ趣旨ニ準ジマシテ、此一條ヲ設ケマシタヤウナ次第デゴザイマス

○石塚英藏君 第二點ハ了解イタシマシタガ、此第一點ノ所ハチヨットマダ分リ兼ねマスガ此王公家軌範ノ中ニ、此第一條ニ類シタヤウナ規定ガ段々アルヤウニモ見エマスガ、矢張り此中ニ規定サルベキデハナイカト云フ所ノ御趣意ガ、少シ分リ兼ねマスカラ、モウ一度御願ヒ致シマス

○政府委員(池田寅二郎君) 少シク説明ヲ補充イタシタイと思ヒマス、唯今ノ御質問ハ蓋シ王公家軌範ノ第二百二十六條等ヲ御考慮ニ相成タモノト想像イタシマスノデゴザイマスガ、即チ是ナドハ稍、類似ノ規定デゴザイマシテ、即チ「婚嫁ニ因リ王公家ニ入リタル女子離婚ノ場合ニ於テハ實家ニ

復籍シ其實家ナキトキハ一家ヲ創立ス但シ實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス」恰モ類似ノ規定デアリマス、ソコデ考ヘテ見マスルト、此百二十六條ノ場合ハ是ハ一般臣民ヨリ婚嫁ニ因テ王公家ニ入ラレタ場合ヲ考ヘテアリマシテ、ソレガ離婚ノ場合ニハ實家ニ復籍シ、實家ナキトキハ一家ヲ創立スルモノト相成テ居リマス、此場合ニ於キマシテハ、一般臣民デアリマシテモ婚嫁ニ因リテ王公家ニ入ラレマスレバ、即チソレニ因テ王公家ノ家籍ヲ取得セラレルコトニ相成リマスルノデ、其王公族ノ家籍ニアラレル者ガ、今度離婚ニ因テテドナラニ歸ラレルカト云フコトヲ規定スルコトニ相成リマスルカラ、即チ王公族ニ關スル特別ノ規定ト云フコトデ以テ、第二百二十六條ニ掲ゲラレタコトト思ヒマス、ソコデ此百二十六條ノ王公家軌範ニ關スル説明モアリマスルガ、ソレニ依リマスルト、王公族ノ女子ニシテ一般臣民ニ嫁スルトキハ既ニ王公族ノ列ニアラズ、其離婚ハ普通法ノ規定ニ從フベキハ勿論ノコトトナツテ居リマス、即チ一旦普通ノ一般臣民ニ嫁セラレタ場合ニ、其後ノ離婚若クハ離婚、降嫁等ハ一切普通法ニ從フ、斯ウ云フ軌範ノ御趣旨ノヤウニ拜見セラレルヤウナ次第デゴザイマス

○鈴木喜三郎君 本案ハ大體明治四十三年法律第三十九號ト同ジ精神デアアルノデアリマシテ、敢テ改メテ御尋スル要モナイヤウデアリマスガ、チヨット一二御尋ネシテ見タイノハ、第二條デゴザイマスガ、第二條ニ依テ王公家軌範六十八條ニ依テ夫ヲ亡タル場合ニ實家ニ復歸スルト云フ規定デアアルノデアリマス、百二十六條ノ方ハ離婚ノ場合デアツテ、離婚ノ場合ハ當然實家ニ復歸スルト云フコトガ軌範ニ定メラレテアルノデアリマスカラ、此六十八條ノ夫ヲ亡タル

場合ニ於テハ、當然實家ニ復歸スルト云フコトニナラナイノデ、自分ノ好ミニ依テ實家ニ戻ラウト思ヘバ戻レルト云フ規定デアリマス、サウシテ見マスレバ實家ノ方デハ當然之ヲ受ケヌト云フコトハナカラウ、實家ノ戸主ガ承諾シナケレバナルマイト私ハ思ヒマス、サウ致シマス此届出ニ付テハ實家ノ戸主ノ承諾ヲ要スル書面ト云フヤウナモノハ添付スル必要ハナイノデアリマセウカ、ドウデアリマセウカト云フコトガ一ツ、ソレカラ四十二年三十九號ノ法律ニモアリマスガ居出事項トシテ「復籍シタル者ノ父母及其ノ者ト父母トノ續柄」、斯ウ云フコトガアルノデゴザイマスガ、現行戸籍法ニハ斯ウ云フコトハナイト私ハ記憶シテ居リマスガ、其者ト父母トノ續柄、父母ハ父母デアリマスガ、ソレハ或ハ養父母デアルトカ、繼父母デアルトカ、實父母デアルトカサウ云フヤウナコトヲ書クモノト解釋シナケレバナラヌノデアリマスケドモ、サウ云フコトヲ書ク必要ハアルノデアリマセウカ、戸籍法ノ用例ニ依レバ届出人ト戸主トノ續柄ト云フコトハ是ハ必要デアルカラ是ハ書ケト云フコトニナツテ居ルノデスカラ、父母ノ氏名ト父母ノ續柄ヲ、ドウモ實母トカ繼母トカ云フヤウナコトハ餘リ必要ハナカラウト思フノデアリマスガ、ソレハドウ云フノデアリマセウカ、ソレカラ戸主トノ續柄ハ必要デヤナカラウカ、實家ノ戸主トセヌカラ、其父母ノ續柄ヲ書クノモソレハ宜イト致シマシタ所デ、尙ホ戸主トノ續柄ヲ書ク必要ハナイノデアリマセウカ、ソレヲ一ツ承テ見タイ

○政府委員(池田寅二郎君) 大體此四十二年ノ三十九號ニ依テ定メタノデゴザイマシテ、今ノ第一點ノ御趣旨ハ六十八條ノ規

定ニ依リマシテ……王公家軌範ノ六十八條ノ規定デ、實家ニ復籍スルト云フ場合ニハ實家戸主ノ承諾ガ要ルモノデハアルマイ、若シ然ラバ其承諾書ヲ添付スルト云フコトガ必要デハアルマイト云フ御趣旨ニ拜聴イタシマシタ、是ハ軌範ノ實ハ解釋ニ屬スル問題ト思フノデアリマス、私共ノ考ヘテ居リマス所ニ依ルト、此軌範ニ於キマスル六十八條ノ復籍ハ許可並ニ此ノ場合ニハ勅許ト云フコトデ當然復籍スルモノデハアルマイカト實ハ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、ゴザイマスルカラ唯今茲ニ舉ゲテ居リマスルヤウナ添付書面デ能クハナイカト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、尙ホ其點ハ主トシテ此軌範ノ解釋ニ屬スルコトデアリマスカラ能ク取調ベマシテ、若シ訂正ヲ要スルヤウナコトヲ發見イタシマシタナラバ早速又申上ダタイト思ヒマス、ソレカラ第二ノ點ハ父母トノ續柄ヲ書クノハ如何ナモノデア

別ニ書ク必要ハナイカ知ラヌト考ヘテ居リマス、大體ハ矢張り度ニ申上ゲマスヤウデアリマスガ、此法規ニ倣ヒマシテ書キマシタ次第デ……

○鈴木喜三郎君 ドウシテ戸主トノ續柄ヲ書ク必要ガナイノデセウカ、現行戸籍法ニハ必ズ戸主トノ續柄ヲ届出ロト云フコトニナッテ居ル總テノ届出ニ付テ……

○政府委員(池田寅二郎君) 其點ニ付キマシテハ現行戸籍法ノ五十四條ニ依リマシテ「本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス」ト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマスカラ、特ニ茲ニ規定イタシマセヌデモ戸籍記載ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル事項トシテ記載スルコトニ相成ルカト思ヒマス

○鈴木喜三郎君 サウ致シマス矢張り内地ノ戸籍ニ記載スル場合ニ於テハ戸籍法ヲ適用スルコト云フコトニナルノデアラウト思フノデス、戸籍法ヲ適用スルモノトスレバ七條ノ如キ規定ヲ置カナレバナラヌ必要ガアルデセウカ、何カ七條ノ規定ガアルト云フ戸籍法ノ規定ハ適用シナクトモ宜イヤウナ反對解釋ガ出テ來ハセヌカト思フ

○政府委員(池田寅二郎君) 矢張りソレモ四十二年ノ三十九號ノ丁度五條ニ當リマスルノデ、茲ニ其規定ガアリマスルシ、ソレデ矢張り大正三年ノ法律第二十六號戸籍法ノ際ニ五條ヲ追加セラレテ居リマスルノデ、矢張り此處ニモ舉ゲテ置ク方ガ疑ヒガナクテ宜クハナイカト思フテ舉ゲマシタ次第デアリマス

○鈴木喜三郎君 次デ私ハ其問ヲ出サウト思フノデスガ、單ニ七條ヲ置クト云フトオカシクナラウト思ヒマスカラ、七條ハ寧ロ削ッテシマヘバ一般通則ニ依ッテ戸籍法ノ適用ガ出來ルト解釋ガ出來ヤウト私ハ思ッテ居タ、仰セノ通り私モ冒頭ニ申シタ通り四十二年三十九號ノ法律ヲ九寫シヨシタカラ、前例ガサウナッテ居リマスケレドモ、今日ニナッテ見ルト云フトドウモ從來……

今日ノ立法例ニ照ラシテ見ルト、三十九號ノ法律ニ手ヲ入レテモ宜イカト思フ位ニ思ッテ居ル、ソレハソレト致シマシテ、此五條ニ原籍本籍ト云フコトガアリマスルガ、是ハドウ云フ區別ナンデスカ

○政府委員(池田寅二郎君) 本籍ハ現在或人ノ現ニ持ッテ居ル籍ヲ云フト云フコトニ相成ッテ居ルヤウデアリマス、原籍ト申シマスルト云フト元ト其籍ノ……元ト有シテ居タ所ノ籍デアアルノデアリマス、例ヘバ一般臣民ノ家籍ヲ出ラレマシテ、王公家ニ入ラレタ場合デアリマス云フト、既ニ王公家ニ入ラレルト云フコトニナリマスルト、入ラレタ以上ハ其人ノ本籍ト云フモノハ、是ハマア假リニアリトシマスレバ王公家ニアル、所ガ其人ガ入ラレマデハ一般臣民ノ家籍ニ居ラレマシタカラ、其際ニ一般臣民ノ家籍ニ居ラレマシタ、即チ甲ト云フ人ノ籍ハ、ソレハ戸主ノ籍ニ入ッテ居ル、サウシテ其人ガ王公族ノ方ニ婚姻ニ依ッテ入ラレタト云ヒマス時ニハ、其甲ノ持ッテ居リマシタ所ノ家籍、ソレヲ除イテ王公家ノ方ニ入ラレルト云フコトニナリマス、其除カレル所ノ籍、ソレハ今日ニ於テハ現ニハ持ッテ居ラナイ、併ナガラ其直前マデ持ッテ居ラレタ籍デアルト云フ意味デ、ソレヲ原籍ト稱スルト云フコトニ使ヒ分ケニナッテ居リマス

○鈴木喜三郎君 是モ三十九號ノ法律ニア

ルヤウデゴザイマスガ、本籍原籍ト云フニツハ私ハナイヤウニ思フテ居ルノデスカ……

○政府委員(池田寅二郎君) 段々調べテ見マシタガ、全ク使ッテ居ナイノデモナイヤウデアリマス、例ヘバ現行戸籍法ノ百三十七條アタリニ矢張り「原籍ノ戸主ノ氏名」云々ト云フヤウナコトヲ使ッテアリマス、是デ宜シクハナカラウカト思フテ實ハ使ヒマシタ

○鈴木喜三郎君 モウ一ツ承ハリマス、第六條ノ比例ハ大抵分ッテ居マスガ、ドウ云フコトヲ御想像ニナッタノデスカ

○政府委員(池田寅二郎君) 是ハ豫メ御説明ヲスベキ或ハ答デアッタラウカト思フテ居リマス、説明ニ補足旁、申上ゲマス、王公家軌範ノ第十四條ノ二項ニ「長子孫ノ系統ニ在ル者父祖ニ先チテ薨去シ男子タル子孫ナキ場合ニ於テ兄弟又ハ其ノ子孫アルトキハ襲系ノ順序ニ從ヒ之ヲ長子孫ノ系統ニ在ル者ト看做ス、前項ノ者ニシテ王家ニ在ラサルモノ及其ノ配偶者ハ王家ニ入ル其ノ者ノ子及其ノ妻亦同シ」云々トアリマシテ、是ガ王公家軌範ニ依リマシテ、王公家ニ一般臣民ヨリ入ラレマス一ツノ事例ニ相成ッテ居リマス、即チ長子男子ノ相續ニナッテ居リマス、其長子長孫ノ系統ニ在ラレマスル者ガマダ相續開始前ニ死亡セラレマシテ、薨去サレマシテ、サウシテ例ヘバ其次男ノ方ガ次ノ襲系ノ順序ニ當リマス、若シ其次男ノ系統ニ當ラレル者ガ亡クナラレマシタ時ニハ又三男ノ系統ニ居ラレル者ガ、其三男ノ長子長孫ト云フモノガ襲系ノ順序ニ當リテ行ク、斯ウ云フコトニ相成ッテ居リマス

結果、其襲系ノ順位ニ依リマシテ、此長子孫ノ系統ニ在ル者ト看做サレタル、例ヘバ三男ノ系統ニ在ラレマス者ガ、次男ノ系統

化シタ場合ニ於テ、原國籍ト云フコトハア

ガ亡クナラレマシタガ爲ニ、三男ノ系統ニ當ラレマスル者ガ長子孫ノ系統ニ當リマス者ト看做サレト云フコトニナリマス。ト云フ、ソレハ丁度第六條ノ第一項ノ規定ニ依リマシテ王家公家ニ、是マデ王家ニ入ッテ居ラレナカタ者モ其爲ニ入ラレト云フコトニ相成ッテ居ル、即チ三男ノ方ガ長子孫ノ系統ニアルモノト看做サレタ場合ヲ考ヘマス。ト云フ、其三男ノ……十四條ノ三號ニ依リマシテ「長子孫ノ系統ニ在ル者及其ノ子」ト云フ、此方ニ並ニ其配偶者ト云フ者ガ總テ王家ニ……王族ニナルト云フコトニナルノデアリマス、ソレデ本來ナラバ少シ縁ガ遠クナッテ居ラレマスル爲ニ王公家ニ……王家ニ入ッテ居ラレナカタ者モ今度其方ガ長子孫ノ系統ニ在ル者ト看做サレタガ爲ニ縁ガ俄ニ近クナル、其爲ニ是マデ王公家ヨリハミ出シテ居リマシタ系統ノ方ガ、王公家ニ入ッテ來ラレト云フ場合ガ生ズルノデアリマス、ソレカラモウツハ第二十一條デアリマシテ、唯今ノ規定ニ依リマシテ、其直系卑屬ニ當ラレマスル者ガ居ラレマス間ハ、長男ノ系統ガ無クナリマス。レバ、次男、其次ハ三男ト云フヤウニ、其直系卑屬ニ當ラレマスル者ガ居ラレマス間ハ、其卑屬ノ系統ヲズツト補充イタシマシテ、所謂相續系統ノ補充ト云フモノガ出來ルコト。今ノ十四條デ相成ッテ居リマスガ、ソレガ全ク絶エマシタ場合ヲ考ヘマス。ト云フ、今度ハ矢張り繫系ノ順序ニ依リマシテ其次ノ兄弟ト云フ風ニ繫系ノ順序ガ參リマスニ依ッテ、例ヘバ王ガ薨去サレマシテ、其直系卑屬ニ何方モ相續順序ニ當ラレトシテ、其居ラレマスル場合ニハ、其弟ガ王家ヲ今度繫系サレト云フコトニ相成ルノデアリマス、サウシマスルト云フト其王

系又ハ公系ヲ繫キタル者ノ配偶者直系卑屬及其ノ配偶者ニシテ王家又ハ公家ニ在ラサルモノハ其ノ家ニ入ル」ト云フコトニ相成ッテ居リマス、ソレニマア稍……但書ノ條件ハアリマス。ケレドモ、大體其王家公家ヲ今度ハ降リマシタ例ヘバ王ノ弟、其弟ノ系統ニナラレマスル方ガ、是ガ是マデハ王家公家ニ入ッテ居ラレナイ、即チ縁ノ遠イ爲ニ入ッテ居ラレナイ者ガアリマシテモ、其方ガ皆王家公家ニ入ッテ來ラレト、斯ウ云フ風ニ相成ルノデゴザイマシテ此場合ニハ軌範ノ今ノ十四條並ニ第二十一條ノ規定ニ依リマシテ、當然王家公家ニ入ッテ來ラレト斯ウ云フ工合ニ相成ル積リデゴザイマス。

○鈴木喜三郎君 私ハモウ質問ハゴザイマセヌ

○河村讓三郎君 御考ハ如何デゴザイマス、是ハ直ニ御決定ニナル御考デアリマス。カ、實ハ是ハ法案ハ極メテ簡單デアリマス。ケレドモ、之ニ關係ノアリマスル王公家軌範、又民法等ノ條文等ノ關係ヲ一通リ見マス。レバ多少考慮ヲ要シマス。カトモ思ヒマス。ノデ、願クハモウ一回御開キニナリマシテ其間ニ少シク猶豫ヲ與ヘテ頂キタイと思ヒマス。

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 唯今河村委員カラ此法案ヲ御取扱ヒニナルコトニ付テ御意見ガアリマシタガ、皆サン御聽キニナリマシタカ、委員長ト致シマシテハ別ニ何等考ヘハ持ッテ居リマセヌ。ノデ、委員諸公ノ御多數ノ御考ニ從フト云フヨリ外ナイノデアリマシテ、私トシテハ其事ヲ申上ゲテ置キマス。

○河村讓三郎君 チョット一日位置イテ戴クヤウニ願ヒタイ

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) チョット速

記ヲ止メテ……

〔速記中止〕

○河村讓三郎君 多數ノ委員ノ御考ハ先例モアルコトダニ依ッテ、此以上深く研究スルコトモナカラウ、寧ろ直チニ決定スルト云フ御考ヘノヤウデアリマス、ソレデハ私モ別段異論ハアリマセヌ。カラ、委員長ノ御計ラヒニ御委セ致シマス。

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 唯今段々御質問モアリマシタシ、又當局ノ方ヨリ御深切ナ御答辯モアッタ譯デアリマス。カラ、此兩案ニ付テ、ソレデハ別ニ逐條審議ト云フヤウナコトモ要ルマイト存ジマスガ、如何ナモノデゴザイマセウカ。

○石塚英藏君 一括シテ議題ニ供サレルヤウニ希望イタシマス。

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) ソレデハ一括シテ御意見ヲ伺フコトニ致シマス、ソレカラ不動産登記法中改正法律案ニ付テハ別ニ御質問ハアリマセヌカ。

○鈴木喜三郎君 私ハアリマセヌ

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 御質問ナイモノト認メマス、御意見ガアリマス。レバ、第一ニ王公家關係ノ方ニ付テ伺ヒマス。

○鈴木喜三郎君 不動産登記法モ一緒ニ議題ニ供シテ頂キタイと思ヒマス。

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 不動産登記法中改正法律案、是モ一緒ニ議題トスルコトガ御便宜ト御認メナラ、ソレデ結構ダト思ヒマス、ソレデ宜シウゴザイマス。カ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) ソレデヤ此兩案ヲ一括シテ議題ト致シマス。

○鈴木喜三郎君 私ハ此兩案ニ對シテ贊成ノ意思ヲ表示イタシマス、別段改メタ意見モアリマセヌガ、既ニ先キニ同一趣旨ノ法律モアルノデゴザイマシテ、ソレト異ル所

ガナイヤウデゴザイマス。カラ、全然贊成イタシマス。

○石塚英藏君 贊成イタシマス。

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 鈴木君ノ協賛ノ御意見、並ニ石塚君ノ御贊成ガアリマシタ、サウスルト此兩案ヲ此儘採決スルコトニ御異存ゴザイマセヌカ。

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) サウスルト此兩案ヲ議題ニ供シマス、政府提出ノ此兩案ニ付テ、可決サレマシテ御異存ゴザイマセヌカ。

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵寺島誠一郎君) ソレデハ兩案トモ可決イタシマシタ、之ヲ以テ閉會イタシマス。

午後零時二分散會

出席者左ノ如シ

委員長	伯爵寺島誠一郎君
副委員長	河村讓三郎君
委員	子爵藪 篤磨君
	子爵板倉 勝憲君
	石原 健三君
	鈴木喜三郎君
	石塚 英藏君
	男爵船越光之丞君
	磯貝 浩君

國務大臣	司法大臣 江木 翼君
政府委員	司法政務次官 本田 恒之君
	司法省民事局長 池田寅二郎君